

平成 30 年度第 3 回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

1 各地区で出てきた意見

【中央地区】

- ・テグレートール、ミカムロ⇒飲み続けると細菌感染により頬腫れの原因となる。
- ・どんな歩き方をしているのか、画像があれば、右片マヒによるものなのかどうかなど判断しやすい。
- ・要支援 1・主治医意見書Ⅱa でギャップ有。主治医がどのように見ているか。
- ・重複投与になっており、プラビックス以外の 3 剤はなくてもよい。
- ・舌癌の可能性も。

【小田地区】

- ・キッザカフェ(西長洲)、みんなの食堂(杭瀬)、ごはんどきっちん(下坂部)、まあい食堂(金楽寺)などに誘う。
- ・和楽園(囲碁・将棋)、健康マーじゃんなどへの参加
- ・適切な福祉用具の選定、屋内環境の調整⇒安全な移動、運動(歩行)へ繋げる。
- ・口腔外科への受診、訪問歯科の利用。
- ・嚥下のリハビリ、栄養相談等、受診から繋げることもできる。
- ・薬剤師の訪問(生保なので負担なし)、薬の飲み方確認⇒情報繋げる

【大庄地区】

- ・ヘルパー同行で民生委員と顔つなぎできれば。
- ・男性が参加しやすい将棋の集まりなどを紹介。
- ・健康マーじゃん(大庄地区に 2~3 カ所ある)
- ・唾液が出ているか、義歯を入れていないのでは⇒ヘルパーによる聞き取りが必要。
- ・人と交わるのが苦手な理由は？親しい人となら交流するのか⇒本人の意思確認が必要。

【立花地区】

- ・お薬手帳に CM からの情報を記載。CM が分かれば何かあったときに連絡できる。
- ・わたしファイルの活用を進めたい。
- ・浴槽が跨げない理由、調理をしない理由、意向をもっと引き出す。
- ・見守りツールとしての回覧板活用。

平成 30 年度第 3 回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

【武庫地区】

- ・本人の「困っていること」は何なのか。
- ・嚥下障害、体調不良等が分かれば、他に隠れている病気がわかる。
- ・薬局の横にコミュニティスペース。地域の方も集える場に来てもらえたら。
- ・事例によってコアになる専門職が違ってよいのではないか。
- ・まずは歯科受診が重要。

【園田地区】

- ・本人が、脳梗塞の再発や突然死のリスクがあることを認識する必要がある。⇒服薬や喫煙。
- ・誰の言うことなら聞くのか。⇒かかりつけ医の話は効果的。
- ・リスクを下げる必要。⇒食生活の改善が重要。配食サービスの利用やヘルパーの援助内容の見直し。
- ・両頬の腫れの原因は分からない。⇒歯科受診を促す。
- ・デイサービスなど利用しない。⇒高齢者に限らない地域の集い場を提示し、参加を促す。例えば、カジノデイサービスや囲碁や将棋等を行っているデイサービスなどを検討。

2 今日の反省会（アドバイザー会議）

○課題と対応策

1.（全職種）

- ・要支援状態の維持を図るためには、独居の当人に対し服薬（重複投与）・血压管理や糖尿病指導、食事摂取の指導などが必要で、やはりサポートする人の存在が不可欠。しかし、要支援者であり、誰がどう支援するのか「役割分担」が大切だ(ご本人が信頼をよせている人が、キーパーソンではないか)。

↓

しかし、当人に誰かが付き添っての支援は困難。やはり役割分担は、ケースバイケースにならざるを得ない。

2.（全職種から）

- ・今回の支援で大切なことは「情報が回ること」。例えば口腔ケア課題に気づいた人がDr. に情報を渡すなどの仕組みが必要

↓

- ・そのために「わたしファイル」が存在する。
- ・しかし、在宅（訪問診療・往診）が無い中、通院中の情報共有に難がある。

平成 30 年度第 3 回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

半年に一度でも、支援者（ケアマネ・ヘルパー等）が専門職のところに「連れてくる」との意識も必要だ。

3.（居宅連・ケアマネ協会）

- ・軽度な方に対する「アセスメント」、特に生活上の課題や改善策を練るスキルが必要。

↓

今回の「気づき支援パンフ」にて、軽度介護度の方に対する意識啓発を進めていきたい。

4.（全職種）

- ・専門職に対し本人が否定的なことはままある。あきらめるのではなく、長期戦になることを覚悟し、地道に進めるしかないのかもしれない。

5.（医師会）

- ・身寄りのない方でも、友人やご近所さんなどやはり「キーパーソン」を持ってもらうことが大切だ。そのキーパーソンが医療受診や介護のことなど日常のお困りを専門職に「つなぐ」役割を持ってもらえれば、かなり予防につながるのでは。
- ・例えば、「身寄りがある場合」「ない場合」など、実際に起こった事例を紹介する手もある。

（金の斧と銀の斧、あなたならどちらを選びますか…）

内容が脅しに近くなるため、パンフレットで残るものというより、出前講座などのみで活用する「紙芝居」のようなものでもいいのでは。